

## 【研究概要】

薬剤治療抵抗性のうつ病を中心とした気分障害や緊張病に対し、迅速な臨床症状の改善が必要とされる場合において行われる電気けいれん療法（ECT）は、精神科領域における重要な治療法として確立されている。ECTにおける麻酔薬の脳内薬物濃度は発作発現に影響を及ぼすため、麻酔薬の投与後からECTによる通電を行うまでの時間（AET）はけいれん発作発現の成否に大きく関与している。今回申請者は前方視的にAETを2群に分けた無作為化比較試験を行い、発作の質、有効性、認容性について調査し、差が生じる背景を解析する。